



南 ぬ 風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

2018.7~9
Vol. 48
夏号



神戸で行った本部町アロモーション

— 観光協会と沖縄美ら島財団(以下、財団)は、設立当時から、さまざまな連携をしてきたんですね。
復帰30周年の2002年には沖縄美ら海水族館がオープンしました。平成29年度は海洋博公園に約500万人のお客さんが見えて、本部町は名実ともに「太陽と海と緑・観光文化のまち」となったと思っております。そのほか、OSC株式会社や

— 当山会長にはリーダーを増やすための信条があるそうですね?
それは「ウチカイ」と「ウトウイムチ」です。「ウチカイ」とは置かれていた環境そのものこと。本部町は八重岳や円錐カルストに見られる末広がり、「ハ」の字の地形の中に、28の集落があり、多様な環境と土壌、植物、海といった素晴らしいウチカイがあります。それを保全しながら、

— これからの本部町観光を、どのようにお考えですか?
2020年に大型クルーズ船の受け入れが予定されています。ク

— 何か具体的に始めていることはありますか?
また、特に外国人観光客の消費を今の数倍にするために、本部町、名護市、今帰仁村でキャッシュレス化を始めております。クルーズ船が入る2020年までは、現金なしでそばも食べられる、タクシーにも乗れる、観光施設への入場もできるようなシステムを導入したいと考えています。そして、やんばるの活性化、雇用促進につながる期待されているのが、八重岳から今帰仁城址間をロープウェイでつなぐ構想です。開通すると、カルスト地形や青い海、青い空の中に、桜や四季を感じるような花々がある景色を楽しめるでしょう。観光は総合産業であり、特に農業、漁業とは連携を図り、本部ブランドを開発しお客さんにとっての「非日常」を作り、キャッシュレス化を押し進めて、本部町にジン(お金の雨を降らせたいと考えています(笑))。

足もとにある資源を活かした観光都市を目指す

— 本部町観光協会のこれまでの歩みについてお聞かせください。
本部町観光協会は(以下、観光協会)1980年4月に発足しました。会員として参加してから1987年には理事、1999年に副会長を経て今日まで38年、私は観光ひと筋で参りました。1975年の沖縄国際海洋博覧会後の沖縄観光が落ち込んだ時期、いわゆる海洋博ショックの中で、102人の会員からなる、任意団体でのスタートでした。まず始めたのは全国キャラバンです。海洋博公園と本部町、沖縄県の認知度を上げるために、毎年、特産品を持参して全国を回りました。また、財団法人海洋博覧会記念公園管理財団(現・沖縄美ら島財団)の協力のもと、花いっぱい運動も進めました。おかげさまで八重岳の桜まつりなど、花いっぱい本部町に、たくさんのお客さんがいらつしやるようになりまし

— 観光協会と財団の連携の中で、地域振興への取り組みは。
近年の取り組みとしては、「KOBEMO・未来号・沖縄」等の神戸市の三宮商店街と財団との交流から、三宮で特産品の展示即売会と本部町のプロモーションをしました。将来的には本部町と神戸市で姉妹都市協定を結ぶという構想もあります。そうなるに関西地区から多くの方々が本部町を訪れ、さらなる発展が期待できます。こうした連携の中で、共同でシークワサーのリニューアル「かりー」などの商品開発が行われるということも

— 農業生産法人株式会社沖縄美ら島ファーム、なごアグリパークなどの健康や農業、観光をマッチさせた事業を通して培われた、財団のノウハウを活用させていただいております。とにかく本部町観光は、海洋博公園なしでは語れないと思っています。
— 観光協会と財団の連携の中で、地域振興への取り組みは。
近年の取り組みとしては、「KOBEMO・未来号・沖縄」等の神戸市の三宮商店街と財団との交流から、三宮で特産品の展示即売会と本部町のプロモーションをしました。将来的には本部町と神戸市で姉妹都市協定を結ぶという構想もあります。そうなるに関西地区から多くの方々が本部町を訪れ、さらなる発展が期待できます。こうした連携の中で、共同でシークワサーのリニューアル「かりー」などの商品開発が行われるということも

ら、歴史と文化を掘り起こして、見る、学ぶ、遊ぶという体験につなげていく。沖縄観光は、よその真似をしな

— 何か具体的に始めていることはありますか?
また、特に外国人観光客の消費を今の数倍にするために、本部町、名護市、今帰仁村でキャッシュレス化を始めております。クルーズ船が入る2020年までは、現金なしでそばも食べられる、タクシーにも乗れる、観光施設への入場もできるようなシステムを導入したいと考えています。そして、やんばるの活性化、雇用促進につながる期待されているのが、八重岳から今帰仁城址間をロープウェイでつなぐ構想です。開通すると、カルスト地形や青い海、青い空の中に、桜や四季を感じるような花々がある景色を楽しめるでしょう。観光は総合産業であり、特に農業、漁業とは連携を図り、本部ブランドを開発しお客さんにとっての「非日常」を作り、キャッシュレス化を押し進めて、本部町にジン(お金の雨を降らせたいと考えています(笑))。

巻頭インタビュー
美ら島をつなぐ
Vol.19

当山清博

TOUYAMA KIYOHIRO

文：いのうえちず

今帰仁村生まれ、琉球政府今帰仁郵便局勤務を経て、1974年に本部グリーンパークホテルに入社。1987年〜1998年本部町観光協会理事、1999年〜2013年3月同協会副会長、2013年4月より現職。

一般社団法人本部町観光協会 会長

協会を支え続けて38年。時代とともに変容していく観光のすがた
1980年の本部町観光協会発足から、今日まで協会を支えてきた当山会長。ホテルの職員時代から町の観光振興に尽力し、観光協会の専従職員から理事を経て、会長となった本部町観光の立役者。2020年の国際クルーズ拠点の整備、大型クルーズ船の受け入れなど、本部町を取り巻く新たな、そして大きな課題に先頭をきって取り組む。そんな当山会長の、本部町への熱い想いをうかがった。

contents

美ら島をつなぐ人 02
おきなわ暮らしのカレンダー 04
沖縄美ら海水族館で出会える生き物 05
沖縄の希少植物 05
調査研究 06
普及啓発 08
御城物語 09
うちなーの手わざ 09
運営管理 10
スポットライトの向こう側 12
財団いんふお 14
編集後記 15
おもろさうしの植物 裏表紙

作品タイトル「在るケモノ」
動物を擬人化表現した「ケモノ」と人間を出会わせることで何が生まれるか?を作品テーマに、凜として直立するそこに「在る」ケモノを表現。発砲スチロールの心材から作り出し薄く延ばした石粉粘土を貼り付けながら球体人形の作り方を応用。堂々と立つその様は、自身の卒業後の人生に立ち向かう意気込みも込められている。
沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科環境造形専攻 彫刻専修 堀本 達矢さん(三重県出身)
47号から50号までの1年間は、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第29回卒業・修了作品展」で受賞した4作品が表紙を飾ります。若い才能にご注目ください。
誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは...
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思





現在水槽で飼育されているシリケンイモリ

沖縄 美ら海水族館で 出会える生き物 Vol.8

和名: シリケンイモリ
科名: イモリ科
学名: *Cynops ensicauda*

シリケンイモリは、奄美諸島や徳之島、沖縄諸島に分布する両生類です。日本固有種のアカハライモリ(別名ニホンイモリ)とよく似ていますが、体がやや大きく尾が剣のように細長いのが特徴で名前の由来になっています。

普段は川や森林の隣接する溪流、水路のよどみや池、低地の水田などに生息しますが、雨上がりには山道で目撃することもあります。成体の全長は雄が約14cm、雌は約18cmで、メスの方が大きくなります。捕獲やロードキル、生息場所の開発による個体数減少が懸念され、IUCN(国際自然保護連合)では絶滅危惧IB類(EN)に、環境省レッドデータブック、沖縄県のレッドデータおきなわでは準絶滅危惧(NT)指定されています。

小型の昆虫やミミズなどをよく食べることが知られており、沖縄美ら海水族館ではオキアミや配合飼料などを与えています。「水辺の生き物たち」のコーナーで飼育しており、剣のような尾をゆっくりと振りながら水と陸を行きかう姿をご覧ください。(ピョン・ウンドク)



尾が細長いのが特徴的

おきなわ 暮らしの カレンダー

vol. 1



「ぜんざい」の定義が関東と関西と沖縄では異なる聞き、驚く人は少なくないだろう。

関東では焼いた切り餅に小豆のあんをソースのようにかけたものが「ぜんざい」で、粒あんまたはこしあんの小豆汁に餅または白玉団子を入れたものを「おしろこ」と呼ぶのが一般的だ(粒あんを田舎汁粉・小倉汁粉、こしあんを御膳汁粉とする例も)。

また、関西では粒あんの汁に焼いた丸餅または白玉団子を入れたものを「ぜんざい」、こしあんの汁に餅または白玉を入れたものを「おしろこ」、焼いた餅に汁気のないあんをかけたものを「亀山」と呼ぶ。関東でも関西でも、これらは寒い時に恋しくなる、温かい食べ物だ。

一方、沖縄における「ぜんざい」は概して冷たい。汁気があつて温かい「ぜんざい」は「ホットぜんざい」とも呼ばれる。特に、沖縄では甘く煮た金時豆と白玉団子を使うため、「ぜんざい」は小豆と焼いた餅」と聞いて驚くウチナーンチュも多い。

「ぜんざいは冬のもの？」 「夏のもの？」



緑豆のあまがしを手作りする人は少なくなった。あまがしの変化形として、金時豆と麦を煮たぜんざいもある。

もともと沖縄には、緑豆や押し麦などを粥状に炊き、米麩を加えて軽く発酵させた「あまがし」という食べ物があった。中国の八宝粥がルーツだと考えられる。「あまがし」はユッカヌヒー(旧暦の五月四日)に子どもの健やかな成長を願って食べられたというが、現在は缶詰なども市販され、ちよつとレトロな沖縄デザートという感覚だろうか。戦後、食糧難の時代に米軍から配給された金時豆を使うようになり、やがて発酵という手間を省いた沖縄版「ぜんざい」が登場。常温で食べる「あまがし」がベースだったため、「ぜんざい」と呼んでも温めることはなかった。

その後、冷蔵庫の普及に伴い、かき氷をのせたハイブリット型ぜんざいが登場。こんもり盛りられたかき氷に、もっちりした金時豆。うだるような夏の暑さにもってこいの「ぜんざい」は、観光客にも大人気の沖縄スイーツとなった。

(文)いのうえちず

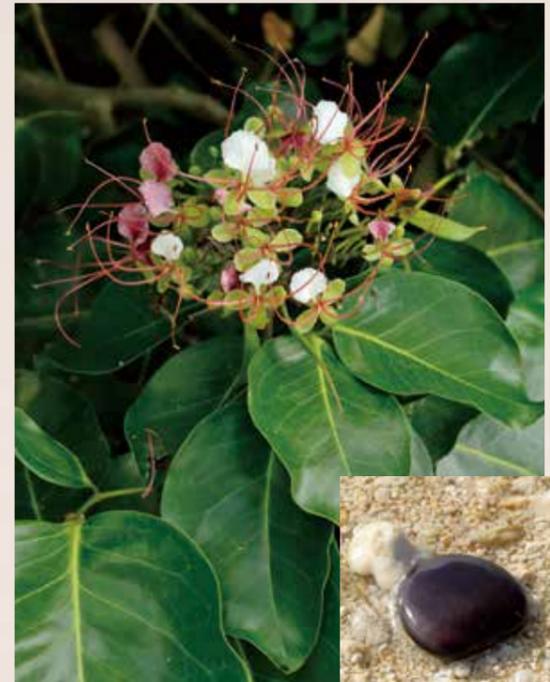
沖縄の希少植物 Vol.27

和名: タシロママ
科名: マメ科
学名: *Intsia bijuga*
レッドデータカテゴリー:
絶滅危惧IA類(沖縄県)、絶滅危惧IA類(環境省)

種子や果実が海流によって運ばれる植物があるのを知っていますか。このような植物は“海流散布植物”と呼ばれ、海流に運ばれ、長距離を移動し広い分布域を持つことが特徴です。

タシロママはこの海流散布植物の高木で、分布は石垣島、西表島、台湾、中国南部、東南アジア諸島、インド、ポリネシア、オーストラリア、マダガスカルと広域に渡っています。分布の北限にあたる八重山諸島は国内唯一の自生地、その生育環境は海岸や河口、マングローブです。もともと自生地と個体数が少ない上、かつて建材として利用されたこともあり、沖縄県(日本国内)では絶滅の危機に瀕しています。タシロママという名前は沖縄の植物等を研究した田代安定(※)に由来します。

花は夏季に咲き、長い雄しべが目立つ風変わりな姿をしています。2015年に沖縄県石垣市の保全種に指定され、採取等が禁じられています。(阿部 篤志)



タシロママの花



タシロママの種

※田代安定(1857-1928)
沖縄の近代植物学研究の先駆者で、植物学・地理学・民俗学・人類学などの発展に貢献した。

琉球王国尚家の文書複製からみえてくるもの



写真2 第二尚氏 第19代国王尚泰
所蔵：那覇市歴史博物館



写真1 尚家文書の複製本

■はじめに

沖縄美ら島財団では、首里城および琉球王国時代の歴史・文化に関する調査研究に活用するため、平成21年度より那覇市歴史博物館が所蔵している国宝「尚家文書」の複製本製作を行ってきました。保存状態や整理の状況によって複製可能なものから製作し、1,300点以上の史料のうちこれまでに約940点の複製製作が終了しています。

■尚家文書とは

「尚家文書」とは、琉球王国の王家である尚家で保存され、受け継がれてきたものです。かつて首里城を拠点とする首里王府の各部署や城外の官庁では、役人たちが職務を行うなかで作成した大量の文書が蓄積・保管されてきました。1879年、明治政府は内務大丞の松田道之を琉球へ派遣し、琉球藩を廃止して沖縄県を設置することを宣言します。これによって首里城は接収され、城内外で保管されていた旧藩(王国)の文書や記録類は、明治政府、尚家、沖縄県庁、のちに沖縄県立図書館で分割・保管されることになりました。尚家に保管された文書類は、首里

城を退去した最後の国王である、第二尚氏第19代国王尚泰(写真2)が世子邸の中城御殿に移った際、ともに移管されたものでしたが、そのうちの一部は、明治末ごろに東京の尚家邸へ移送されています。尚泰の死後に編纂された伝記「尚泰侯実録」の編集を依頼された歴史家東恩納寛惇(※)が東京に住んでいたため、原稿執筆等、編集に必要として移送を願った経緯があります。この時の移送が、後の尚家文書、ひいては琉球の史料保存の歴史に大きな役割を果たすことになりました。

中城御殿に残された文書類は、残念ながら沖縄戦のさなかにほとんどが散逸してしまいました。東京の尚家邸へ送られた文書類は、明治以降に尚家で作成されたものや入手されたものと合わせて、震災や戦禍を免れ大切に継承されてきました。これらの文書・記録類1,341点が、1995年に尚家第22代当主の尚裕氏より那覇市へ寄贈され、寄贈後に調査・整理が進められました。このうち1,166点が、2006年、尚家伝来の美術工芸品とともに、国宝「琉球国王尚家関係資料」に指定されました。

■琉球史研究の新たな手がかりとして

尚家文書は王家の史料であるとともに、琉球の政治行政、外交、儀礼などの多岐にわたる内容を含む、第一級の史料です。これまでに、首里城正殿の復元・整備の根拠史料としても活用されました。

琉球王国の外交・儀礼の中であった首里城では、中国皇帝の使者である冊封使を迎えるための記録が多く作成されました。一例として、1866年の尚泰王冊封に備え、国王の装束衣裳を記録した「丙寅冠船之時」上様御装束考帳(1865年)があります(写真3-1、3-2)。那覇港での冊封使の出迎え、先王を引う論祭の儀式、首里城での冊封儀式(国王の即位式)など、それぞれの場面で国王が着用する衣裳(写真4)が定められ、名称・素材・色・紋様などが記されています。儀礼の解明だけでなく、服飾史、技術史を考えるうえでも貴重な史料です。

これらのことから、尚家文書は尚王家や琉球王国をめぐる調査研究には欠かせない史料であり、首里城に関する調査研究や展示解説、新たな歴史再現催事の考証にも有益な史料であることがわかります。複製本の製作を許可していただいた那覇市へ謝意を表し、今後の解説を通じて、有形・無形の歴史・文化の継承に役立ててまいります。

(勝連 晶子)

写真4



赤地龍瑞雲嶮山文様縹珍唐衣裳
(あかじりりゅうずいんげんざんもんようしゆらんとういしやう)
所蔵：那覇市歴史博物館

写真3-2



尚家文書「丙寅冠船之時 上様御装束考帳」(部分)
所蔵：那覇市歴史博物館

写真3-1

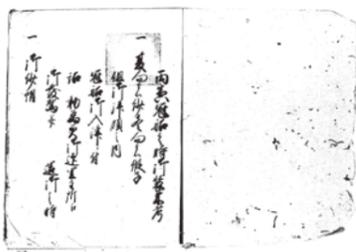
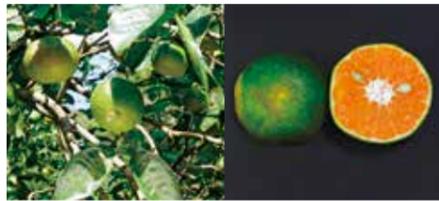
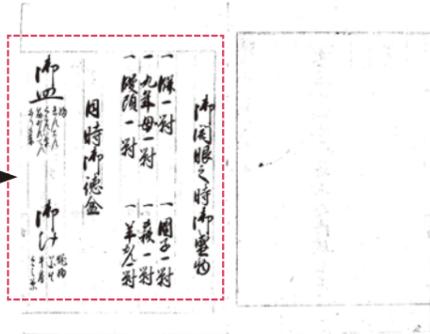


写真5 九年母



東南アジア原産の柑橘類。300年程前に中国南部から沖縄に伝わったとされる。果汁が多く、甘味・酸味ともに強く味は濃厚。

写真6



尚家文書「従一位尚泰様御葬送之時御献立帳」(部分)
所蔵：那覇市歴史博物館

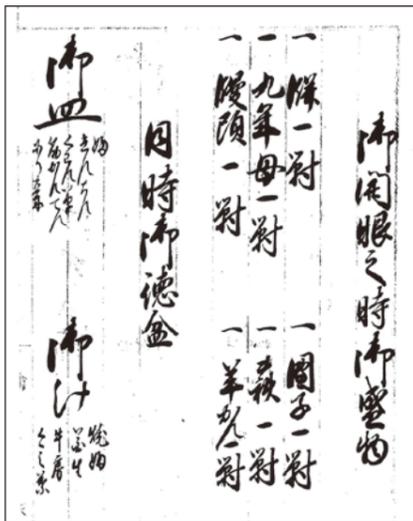


写真6(拡大)

また、第二尚氏第18代国王尚育王や尚泰王の元服・婚礼・法事や葬送など、他の史料群には見られない王家の冠婚葬祭の記録が残されています。例えば尚泰の葬儀に関する史料「従一位尚泰様御葬送之時御献立

※東恩納寛惇(1882-1963)
歴史家。那覇東町に生まれる。東京帝国大学史学科で歴史を専攻し、卒業後は東京府内の中学校や高等学校で教諭をつとめ、拓殖大学などで教鞭をとった。帝大在学中から沖縄研究を行い、「尚泰侯実録」「琉球人名考」「黎明期の海外交通史」「泰ヒルマ印度」「南島風土記」などの著作がある。

参考文献
・那覇市歴史博物館編「国宝」琉球国王尚家関係資料のすべて、尚家資料・目録・解説(沖縄タイムス社、2006年)
・豊見山和行「研究代表者」琉球国王家・尚家文書の総合的研究(2004、2007年度 科学研究補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(2008年3月))

沖縄の自然や環境を伝える「寄附講座」



写真1:名桜大学での講座の様子

師を担当し、それぞれの専門分野をいかして、当財団が行っている調査研究などの取り組みや最新の知見を紹介しました。

例えば、名桜大学で行った「沖縄美ら海水族館での飼育と健康管理」についての講義では、飼育鯨類の採血やエコー検査の動画を使用し、臨場感あふれる解説を行いました(写真2)。イルカの治療や健康管理に取り組み飼育現場の熱気が学生に伝わったのか、授業終了時には自然に拍手が湧き上がるなど、とても印象的な授業となりました。

平成29年度の講座の学生の登録人数は、名桜大学が90人、琉球大学は130人で、受講生からの質問や意見なども毎回寄せられ、活発な講座でした。アンケートにおいても「今まで知らなかった沖縄を学ぶことができた」「など、大学生にも十分に満足いただくことが出来ました。

平成30年度の名桜大学の講座で

は「沖縄理解特別講義」として、より深く沖縄を知るため3つのテーマから自然や歴史文化を紹介しています。①海洋生物の調査研究(サメやウミガメの野外および水族館での飼育下研究など)、②歴史文化の調査研究(琉球王国の歴史や美術・文化財の復元など)、③亜熱帯性植物の調査研究(沖縄の植物相・新品種開発など)をくわしく解説します。

琉球大学では、さらに産業振興(公園が担う社会的機能と役割や広報戦略など)を加え「地域創生特別講義Ⅳ」として、地域の現況を学び、将来に繋げることでできる内容の講座を展開していきます。どちらの講座も、学生の登録人数は平成29年度を上回っていると聞き、大きな手応えを感じています。

これからもさまざまな組織と連携し、沖縄の自然、歴史や文化への深い理解と新しい興味を引き出す活動を続けていきたいと考えています。(山本広美)



写真2:講座「沖縄美ら海水族館での飼育と健康管理」



写真3:講座「文化財の復元事業」

御城物語 Vol.17

うぐしくものがたり

かつて、首里の人々が「御城(うぐしく)」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関するトリビアを語る歴史エッセイ。

弁財天堂と重修天女橋碑記



円鑑池に佇む弁財天堂と天女橋



重修天女橋碑記

首里城城郭の外、龍潭のとなり、弁財天堂と重修天女橋碑記という石碑があります。円鑑池という丸い池の中央にある弁財天堂と、その中島に架かっている天女橋の歴史がこの石碑には刻まれています。

弁財天堂は、当初朝鮮から贈られた方冊蔵経というお経を安置していたお堂だったので、「経堂」という名前の建物でしたが、1609年の薩摩の琉球侵攻の際に焼失してしまいました。1629年に再建した際に、隣接する円覚寺から七福神の一人である弁財天様の像を安置したので「弁財天堂」と呼ばれるようになりました。中島に架かる橋は、女性の神様がいるお堂に架かる橋なので、「天女橋」と呼ばれるようになった。

弁財天堂と天女橋の歴史を刻んだ貴重な石碑をはじめ、首里城周辺に残る文化財を散策してみるのはいかがでしょうか。(幸喜 淳)

手わざ

琉球王国時代から現代へ受け継がれてきた手わざ、がつくり出す伝統工芸の魅力にせまります。

vol. 1

琉球漆器

朱や黒の漆塗りの琉球漆器は、琉球王国時代から作られてきた琉球の美術工芸品で、15世紀に書かれた『陰涼軒日録』に記録がはじめて登場します。

亜熱帯気候に恵まれた沖縄は、漆器製作に適した気候です。また、古くから東南アジアや中国、日本との交流があり、首里王府では漆器を作る役所(負摺奉行所)を設置し、献上品を作っていました。

琉球漆器には、彫られた文様に金箔や金粉を埋め込む「沈金」、ヤコウガイの真珠層を使った「螺鈿」、漆に顔料を混ぜて模様を貼り付けた「堆錦」、漆で描いた絵の上に金箔を貼る「箔絵」、顔料を桐油等として文様を描く、油絵のような「密陀絵」等の技法

があります。

写真1の漆器「黒漆日輪鳳凰瑞雲点斜格子沈金丸櫃」は16世紀に製作された作品です。この時代の沈金は線が細い繊細な模様が見られるのが特徴で、国王の象徴とされる鳳凰の模様が、緻密に描かれています。

現在、首里城公園の鎖之間では、首里城正殿の塗り直しにも携わる県内の漆職人が作った沈金の菓子皿(写真2)で、琉球王国時代から伝わる琉球菓子を提供しています。さらに首里城正殿の玉座に描かれている鉄線(クレマチス)の花が、琉球王国時代から受け継がれてきた琉球漆器の技法を、現代に伝えています。

(久場まゆみ)



写真1 黒漆日輪鳳凰瑞雲点斜格子沈金丸櫃 (くろうるしにちりんほうおうずいんてんしゃこうしちんきんまるびつ)



写真2 鎖之間の菓子盆

2018年4月、なごアグリパークが満を持してグラントオープン

農業振興のため、さまざまな取り組みを展開

人が集まり、交流する場を提供し、農業の支援と観光との融合をはかる



大型連休中に開催された手作り市。期間中のべ約1万1千人が来場した。

2018年4月にグラントオープンしたなごアグリパーク（以下、アグリパーク）。名護市が農業の6次産業化（生産・加工・販売）を支援するために整備した施設で、沖縄美ら島財団（以下、財団）は指定管理を担っている。

「財団は指定管理者としてアグリパーク全体の管理と運営を行っています。また沖縄本島北部・やんばるの物産を集めたセレクトショップ「しまちゅらら」や「スーパーフアーム」の店舗運営のほか、レストラン「美ら島キッチン」は、財団関連会社の株式会社沖縄美ら島フードサービスが運営しています。健康、美容、長寿をテーマとして、2015年に加工支援施設と、実際に6次産業化に取り組む農業者の方が事業を自立させることを目的としたインキュベーター室2店舗の部分からオープンし、段階的に整備されてきました」

と話すのは、総務部なごアグリパーク指定管理業務担当の山里将樹副参事。アグリパーク全体の運営としては農業支援と観光との融合という二つのテーマがあり、名護市の畜産まつり、沖縄県立農業大学の農大祭プレイベントなどのほか、地元住民からの声で、トゥバラーマ大会や手作り市、マルシェ、フリーマーケットなどに場所を

たり、香りをかいだりという『体験』をすることが出来ます。現在は展示販売温室でハーブを使ったクラフト体験プログラムを行っています。ゆくゆくはハーブ講座や、ハーブの知識を持った係員が案内するツアーも開催できると考えています」

とは、営業推進部なごアグリパーク事業チームの中川綾乃係長。ちなみに展示販売温室でのクラフト体験プログラムは大人気だそう。

「大型連休中はカラーサンドだけでなく利用者は100組以上いらっしゃいました。ハーバリウムやアロマワックスバーは、沖縄の草花や、ハーブの自家製ドライフラワーでまかなえるように体

提供することも。施設利用の推進につながるイベントはできるだけ柔軟に対応しています。地域に開かれ、人が集まって交流する場になれば、施設の利用促進、ひいては農業支援や観光との融合にもつながると考えています」

スーパーフアームは展示販売温室のみ2016年に先行オープンしていたが、今回のグラントオープンで新たに生産温室、ハーブ園が加わり3つの施設で構成された。

生産温室では葉野菜を底面給水式の水耕栽培で育てる。一般的な水耕栽培に比べ、水の量が少なく、根が空気に触れているという特殊な栽培法で、天候に左右されず、農薬を使う必要もない、安心・安全な野菜が栽培できるのが特徴だ。味も露地栽培とあまり変わらない。夏場に葉野菜が不足する沖縄では注目されている。また、ハーブ園では、200種類以上のハーブと島野菜が見られる。

「財団は日本メデイカルハーブ協会の会員になっており、ハーブに関する知識の普及啓発にも取り組んでいます。ハーブ園にはメデイカルハーブ検定に出題されるハーブが植えられていて、見るだけでなく、触つ

制を整えています」

また、カフェコーナーでは珍しいミントフレーバーのコーヒーやハーブティも楽しめる。スーパーフアームは、まさに「見る」「触れる」「香りを楽しむ」「味わう」という五感を使った体験型農園だと言える。

山里副参事は語る。

「財団の強みは、総合研究センターがあることだと思います。動植物の知見を持った職員とともに、展示や植物に関する知識の普及、農業分野で地域や生産者との連携に取り組みたいと考えています。」

（文Ⅱいのうえちず）



- ①生産温室内部。
- ②生産温室の育成室では紫外線を当てるなどして環境を適切に管理する。
- ③珍しいハーブも揃ったハーブ園。実際に触れて香りを楽しむこともできる。
- ④美ら島キッチンで提供しているしゃぶしゃぶ用の野菜の一部には、生産温室で育てられたものを提供している。
- ⑤左がカラーサンド、手前の固形がアロマワックスバー、ボトルに入ったものがハーバリウム。月桃など沖縄ならではのハーブも用意されている。
- ⑥ハーブ園では沖縄で育てることのできる約200種類のハーブを展示
- ⑦営業推進部なごアグリパーク事業チームの中川綾乃係長。
- ⑧総務部なごアグリパーク指定管理業務担当の山里将樹副参事。
- ⑨大型連休中に実施した「親子でしゃぶしゃぶ用の野菜の一部には、生産温室で育てられたものを提供している。
- ⑩インキュベーターの一つマキ屋フーズ。紅麴を使ったピンク色のパンや甘酒が評判の店。
- ⑪インキュベーターの一つCook hal。店内での飲食のほか、農家直送の野菜や果物も買える。



毎年夏休み期間中に、海洋博公園 エマールドビーチで小・中学生を対象とした体験プログラム「キッズウインドサーフィン」を、自らのゼミの学生と共に実施している、公立大学法人名城大学の平野教授。募集を開始するとすぐに満員になるほどの人気で、夏の名物イベントと化している。美しい海に囲まれていながら、マリンスポーツを楽しむ人が少ないと言われる沖縄県。子ども時代にマリンスポーツを通じて海に親しむ機会を作ることは大切だと語る平野教授に、話を聞いた。



名城大学大学院 国際文化研究科
人間健康学部 スポーツ健康学科
教授・博士(スポーツ健康科学)
平野 貴也 ひろの たかや

「キッズウインドサーフィン」は海洋博公園の体験プログラムの中でも特に人気が高いそうですね。始めて何年ぐらいですか？
平野 「もう10年になります。小学生がウインドサーフィン(以下、ウインド)を体験できるプログラムはなかなかないので、僕のほうから

沖縄美ら島財団に『こういうことをやりませんか』と企画を持ち込んで(笑)実現しました。おかげさまで、毎年募集を始めると、すぐに満員になります。毎年楽しみにして来てくれるリピーターの子もいるんですよ。僕の専門はマリンスポーツやレジャーレクリエーションの普及を促進する研究で、子ども時代に体験の機会を与えること

は、そのスポーツに親しみを持ち、彼らが大きくなった時に『やってみようかな』と考える選択肢の一つになりますから大切だと考えています。自転車と一緒に、乗れるようになる、その後はプランクがあってもすぐにまたできるのがウインドの良いところ。道具も進化していて、昔に比べて立ちやすい、安定感のあるボードになってきましたね。やってできない悔しさをモチベーションにするよりも、やってスルスル走ったことを糧にするほうが良いので、道具の進化はありがたいです」

重くなりますから、陸上である程度練習することが必要です。その後、『海の学び』と題して、海の環境やシーマンシップについて10分ほど学びます。この時は基本的に学生が話したいことを話すようにしています。相手の年齢に合わせて理解できる内容にするよう指導しています。」

平野 「僕一人ですべてを担当することはできないので、ゼミの学生に手伝わってもらっています。小学生たちも自分たちに年齢が近いお兄さん・お姉さんに教えてもらうほうが、僕らみたいなおじさんが教えるよりも、うれしそうなんです(笑)。まず、陸上で15分ほどトレーニングをして、20分ほど海に入ります。海ではセールがぬれて

平野 「スポーツの指導者になりたいたいか、スポーツイベントの運営をやってみたいとか、志望理由はいろいろです。毎年、海洋博公園で開催されるトリムマラソンでもゼミ生はボランティアスタッフとしてお手伝いしています。約5千人がエントリーするような大会で、どうすれば出場者・観客の満足度が高くなるかを考えながら現場を見せてもらうことは、学生にはすごく良い経験になっていると思います

ます」

「スポーツは沖縄の経済を考えるキーワードの一つですし、特にマリンスポーツは海を活かしたサステイナブル・ツーリズムにも直結します。先生から見ると、沖縄の状況はいかがですか？

平野 「沖縄の環境はすごくいい！5月にウエットスーツを着ないでマリンスポーツができるなんて最高です。大学でも毎週ウインドの授業がありますし、ダイビングを教えるのに本部や北谷の海にもよく入ります。ちょっと沖のポイントに出ればサンゴがあって、学生たちも『こんなにサンゴがあるんですか!』と驚いています。生物多

様性も海の中に入れば一目瞭然ですし、環境の話は学生たちにもスツと入って理解が早い。沖縄の人が沖縄で遊ぶ楽しさを実感し、マリンスポーツの楽しみ方を知れば、もつとマリンスポーツ人口が増えるんじゃないかと思っています。ただ、マリンスポーツビジネスはどうしても繁忙期に限られるため、例えばウインタースポーツと組み合わせて、夏は沖縄で仕事をし冬は雪山で仕事をするというようなビジネスモデルが構築できないかとか、アジアとの連携とか、いろいろ考えますね」

平野 「実は僕、SAJ(日本スキー連盟)公認のスキーボード正指導員の資格も持っているんですよ。専門はアルペンです。沖縄の所属で初の正指導員なので、登録番号は1番(笑)。毎年、学生を連れてウインタースポーツの研修に行っています。学生にはまだ経験したことのない新しいスポーツに触れてほしいと考えています。それは社会に出て、新しい経験をするときには必ず役に立つと思います」

地元への愛着が増します。競技関係者や愛好家でなくても、スポーツの大会を通して人の役に立つことである種の自己実現もできる。観客の満足度は次年度もまた見に来るかということにつながり、イベントそのものと、そのスポーツの社会的な評価につながります。僕はもつと沖縄でマリンスポーツをやる人が増えればいいなと思っていますので、マリンスポーツを体験したり、大会のボランティアに参加したり、地元の子どもたちが見に来たりすることで、マリンスポーツが沖縄に定着したらいいなと考えています。



キッズウインドサーフィンの様子

平野 「実は僕、SAJ(日本スキー連盟)公認のスキーボード正指導員の資格も持っているんですよ。専門はアルペンです。沖縄の所属で初の正指導員なので、登録番号は1番(笑)。毎年、学生を連れてウインタースポーツの研修に行っています。学生にはまだ経験したことのない新しいスポーツに触れてほしいと考えています。それは社会に出て、新しい経験をするときには必ず役に立つと思います」

平野 「スポーツが地域に貢献できることもいろいろあると思います。神奈川県横須賀市で開催されるウインドのワールドカップの観戦客の調査に行ったことがありますが、連日6千人が海辺に来るんですが、印象としては3分の1がウインド経験者、3分の2は特にウインド経験はなく、地元や他の地域から見に来る人たちでした。地元の人が見て『ウインドってこういうものなんだ』と理解して、世界トップクラスの選手が参加する大会にボランティアで参加すると、

キッズウインドサーフィンは競技のすそ野を広げるという意味でも大切な活動だと思います。マリンスポーツ普及のために、国体チームや高校にヨットを教えに行くこともあります。ウインドサーフィンの選手強化にも取り組んでいて、2007年の秋田わか杉国体では、セーリング成年女子国体ウインドサーフィン級で指導にあたった森山希美選手が3位に入賞したんですよ。これからもさまざまな活動に取り組んでいきたいですね」

(文いいうえちす)

もとぶ産シークワーサー果汁入りリキュール 新商品「かりー」を発売!

2018年5月3日、沖縄美ら島財団は、地域連携や地場産業の活性化、特産品の消費拡大等を目的に、もとぶ産シークワーサー果汁と国内外で高い評価を得ている人気ブランド神戸ワインを調和させた新商品のリキュール「かりー」を発売しました。

2009年から始まった「KOBEMO 未来号 沖縄」プロジェクトをきっかけに、当財団と神戸三宮との交流が始まり、これらの活動の一環として本部町、農業生産法人もとぶエルネスフーズ株式会社と当財団の三者が、(一財)神戸みりの公社(神戸ワイナリー)農業公園と共同で本商品の開発を行いました。味は、フレッシュな酸味と華やかなフルーツの香りが印象的な、神戸ワイン(白ワイン、原料品種シャルドネ)をベースに、もとぶ産シークワーサーの持つ爽やかでキレのある酸味や香りが調和された、辛口の新感覚リキュールです。スッキリとした軽快な飲み口は、肉料理、魚料理、沖縄料理にも合わせやすく、そのまま飲みいただくのはもちろん、カクテルに使用するなどアレンジの幅も広がります。

新しい沖縄の味を、ぜひお楽しみください。



もとぶ産シークワーサー果汁入りリキュール

商品仕様
リキュール/辛口
アルコール度数 12%/容量 720ml
もとぶ産シークワーサー果汁2%使用
希望小売価格:¥2,100(消費税込)

販売店舗

■ 海洋博公園内

- ボトル販売店舗
● 沖縄美ら海水族館ショップ「ブルーマンタ」
● 総合案内所ハイサイプラザ内ショップ「やんばるの杜」
- ドリンクメニュー 提供店舗
● 沖縄美ら海水族館 レストラン「イノー」
● 熱帯ドリームセンター トロピカルフルーツカフェ「スクール」 ※グラス380円(消費税込)

■ 首里城公園内

- ボトル販売店舗 ● ショップ「紅型」
- ドリンクメニュー 提供店舗
● 首里城公園内 レストラン「首里杜」 ※グラス380円(消費税込)

■ なごアグリパーク「しまちゅらら」

ボトル販売のみ

■ 沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅらら」

ボトル販売のみ

※本部町内では「もとぶかりゆし市場」を皮切りに、順次、販売店舗数を増やしていく予定です。

「嘉手納ーTトラベルフェア」 2018に出展!

2018年5月5日、嘉手納基地内シーリングコミュニティセンターにて開催された「嘉手納ーTトラベルフェア2018」に出展し、沖縄美ら島財団が管理運営を行う施設のPR活動を行いました。

沖縄に配属された米軍人・軍属およびその家族を主な対象とした沖縄観光をPRするイベントで、約7000名の方々が来場されました。

会場では、海洋博公園と首里城公園のパネルを設置し、またサメやマンタの顎や皮標本、カトリア鉢などの展示を行い、初めて各施設を知るとい方にも、わかりやすく施設の特徴や魅力を伝える工夫に努めました。また、首里城公園のオリジナルグッズ抽選会も行い、ブースには老若男女問わず多くの方々に足を運んでいただけました。

今後も管理運営施設の魅力を、沖縄に配属された米軍関係者の方々に伝え、利用促進を図っていきます。



オオメジロザメ・イタチザメ標本



PRの様子

京都市在住の親子が発見した日本初記録の淡水魚 和名『カワウミヘビ』を提唱しました

沖縄美ら島財団総合研究センター動物研究室の研究グループは、京都市在住の親子が名護市の源河川で採集したウミヘビ科の魚類が、日本初記録であることを明らかにし、和名「カワウミヘビ」を提唱しました。

本種の発見は世界的に珍しく、世界で6か所目の発見であると同時に、北限記録が更新されました。本研究の内容は、国立大学法人琉球大学博物館(風樹館)が発行する学術雑誌「Fauna Ryukyuan」(2018年3月23日発行)に掲載されました。

沖縄周辺では今でも新種や国内初記録種が続々と報告されており、本件のように一般の方々が貴重な発見をするチャンスは十分にありません。珍しい生き物を見つけた際は、お気軽に総合研究センター動物研究室にお問い合わせください。



ウナギやウツボに近縁の魚類で、爬虫類のウミヘビとは全く異なる。



飼育中のカワウミヘビ

お問い合わせ: 沖縄美ら島財団 総合研究センター 動物研究室
TEL.0980-48-2266

台湾地震募金 台北駐日経済文化代表処 那覇分処へ寄付しました



(左から) 蘇 啓誠処長、当財団理事長花城良廣

沖縄美ら島財団では、2018年2月7日に発生した台湾東部地震に際し、当財団との国際交際事業等において協力関係にある台湾への励ましと支援を目的として、2月27日から3月31日まで海洋博公園、首里城公園等で義援金の募金活動を実施いたしました。このたび、皆様からお預かりした義援金が105,903円となりました。ことをご報告させていただきます。お預かりした義援金は、2018年4月12日に台北駐日経済文化代表処那覇分処を通じて台湾に寄付させていただきました。皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。ともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

前売り券よりもっとお得に、おきみゅーを満喫! 「OKiMu 1DAY PASSPORT」

沖縄県立博物館・美術館(愛称:おきみゅー)では、2018年4月27日よりお得なサービス「OKiMu 1DAY PASSPORT」の販売を開始しました。「OKiMu 1DAY PASSPORT」は、おきみゅーで開催する常設展や企画展など、すべての展覧会に入場できる一日利用券で、通常料金より約23%もお得に!

また、ミュージアムカフェ「カメカメキッチン」や、ミュージアムショップ「ゆいむい」で券を提示すれば、うれしい購入特典が受けられます。

※「OKiMu 1DAY PASSPORT」の販売料金は、企画展により変動します。また、時期によって特典の内容が変わりますので、詳しくは窓口までお問い合わせください。



お問い合わせ:
沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー) TEL.098-941-1232

夏休み期間中(2018年7/13~9/2)の料金例

「ティラノサウルス展」、「ゲゲの人生展」
「博物館常設展」、「美術館コレクション展」
4つの展覧会、全て観覧すると

通常料金 (一般)
3,020円
のところ

OKiMu 1DAY PASSPORT なら

2,350円

670円も
お得!

おもろさうしの

植物

其の十三

「くすぬき」

(クスノキ)

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

一 くすぬきのみ御船

押し浮けたるみ御船

跡 直ちへ

先良かるみ御船

又 按司襲いがみ御船

「第一三巻八九一」

楠の御船、
押し浮けた御船の
船の航跡を直し、穏やかにして
行く末を祝福された御船である
国王様の御船であることよ

「解説」
楠材で造った国王様の御船である。押し浮かべた御船である。船の航跡を直し、穏やかにして、行き先を祝福された御船である。国王様の御船であることよ。
「くすぬき」は植物名。楠。船材に使われた。方言ではクスヌチという。
国王様の御船は貿易船であろう。行く末を讃美し、祝福されている。



一口メモ

クスノキは日本の関東以南、台湾、中国(揚子江以南)に分布した。現在、沖縄の山野に自生するクスノキは古い時代に伝来し、植栽されたものが逸出したものであるといわれる。
常緑高木であり、樹高は12メートル、幹径が2メートルに達し樹皮は縦に狭い裂け目が入るのが特徴。
葉や木全体に芳香を有し、その主成分である樟脳(じようのう)を防虫剤として用いる。昭和の初期頃まで肥沃な谷間に盛んに造林され樟脳が製造された。緑陰、公園、街路樹として広く用いられるほか、材は建築、家具、船舶に利用される。

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立
名護青少年の家



なご
アグリパーク



沖縄県立博物館・
美術館(おきみゅー)



2018年7月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888
TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷
〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5



この印刷物の情報は個人情報保護マネジメントシステム(プライバシーマーク)を適用しています。
株式会社 東洋企画印刷 プライバシーマーク (24000430)

季刊誌 南ぬ風 夏号 vol.48 2018.7~9

ISSN 2189-4140